

【必修】今求められる教育のあり方と支援

【選択必修】国内外の教育事情とその変化

- 期日 【必修】今求められる教育のあり方と支援 平成 31 年 8 月 5 日(月)
【選択必修】国内外の教育事情とその変化 平成 31 年 8 月 6 日(火)
- 主な対象 幼稚園、小学校、中学校・高等学校保健体育教諭
- 定員 115 名
- 会場 たまプラーザキャンパス
- 応募期間(仮申込) 平成 31 年 4 月 16 日(火)10:00~4 月 19 日(金)23:59
- 受講料 1 万円

【必修】今求められる教育のあり方と支援

- 時間数 6 時間 【必修領域】「全ての受講者が受講する領域」

■講習内容

世界がグローバル化し一国の事情だけでの教育は困難となっている。教育の普遍性が求められるが、特に倫理、道徳領域は文化的背景を越えたスタンダードが必要となろう。国際的広がりとともに最近では個人の多様性も叫ばれている。発達障害が注目され、その理解と支援法が研究されている。本講義はこのような今日的課題を分かりやすく解説する。

■担当講師

- 田沼 茂紀 國學院大學人間開発学部教授
- 柴田 保之 國學院大學人間開発学部教授

■シラバス

講座名	グローバル化時代における学校教育のアプローチ
担当講師	田沼 茂紀
講座概要	<p>本講義では現代的な課題が山積する学校教育にあって、子どもの学びを軸にした学校づくりをどう進めていくのかという視点と、教師の多忙化が慢性化している中で高度専門職としての自己研鑽をどう継続していくのかという視点で展開していきたいと考える。具体的な講義の柱となる事項は、以下の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none">① 新学習指導要領(平成 29 年 3 月改訂)で目指している「生きる力」と資質・能力形成の在り方について② わが国の学校教育が解決すべきこれからの課題と世界の教育動向について③ 子どもの学びを育むためのカリキュラム・マネジメントの進め方について④ 反省的実践家としての教師の専門性の高め方と実践的視点について <p>本講義では一方向的な学びではなく、双方向的な「主体的・対話的で深い学び」が体験できるよう、創意工夫ある展開を心がけていく。</p>
評価基準	本講義での学びを通して、①今日の学校教育の課題について、②教職の社会的使命と自己研鑽の必要性について、この2点について理解できたかを最後に論述してもらうことで評価とする。

講座名	子どもの発達に関する最新の事情(脳科学や心理学の知見をふまえて)
担当講師	柴田保之
講座概要	現在、子どもたちの発達の理解の根本的な見直しを迫っているもっとも大きな要因は、様々な障害や外国籍等の背景、家庭環境の背景などによって特別な教育的ニーズを有する子どもたちの存在である。そうした状況に対して、脳科学の発展や、子どもの発達に関する心理学的な知見の蓄積は、そのような問題への様々な示唆をもたらしつつある。また、教育現場における多くのすぐれた実践も、具体的な現実の世界で生きる子どもたちの姿を通して、子どもたちの発達の理解を深める重要な手がかりを与えている。本講義ではそうした両方向からの議論の整理を行い、実践に資する情報を提供したい。受講者の皆さんは、この後者の議論の専門家である。限られた時間の一方通行の講義ではあるが、対話的な内容の講義としたい。
評価基準	講義を通して考えたことを論述していただく。

【選択必修】国内外の教育事情とその変化

■時間数 6時間【選択必修領域】「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」

■講習内容

現代社会においては、子ども・保護者・家族のあり方の問題や課題が多様化、複雑化、深刻化してきている。国内外の教育事情や近年の教育現場の実情を踏まえて、最新の学校教育のあり方や子ども支援の仕方について提案する。そして学校組織、教育行政、教育委員会など、近年の教育をめぐる状況の変化を多角的視点から考察する。

■担当講師

神長 美津子 國學院大學人間開発学部教授
小笠原 優子 國學院大學教育開発推進機構教授

■シラバス

講座名	育みたい資質・能力と学校段階間連携 —幼小の円滑な接続と「10の姿」の活用を例にして—
担当講師	神長 美津子
講座概要	グローバル化や人工知能の急速な進化等、社会の変化は加速度を増し、ますます予測困難な時代をむかえている。子どもたちが未来社会の創り手として、しなやかに生きていくために、学校教育においては、幼児教育から高等学校教育までを一貫して必要な資質・能力を育てることが求められている。本講習では、特に、経験カリキュラムに基づく幼児教育から教科カリキュラムを中心とする小学校教育への円滑な接続に焦点を当てて、育みたい資質・能力と学校段階間連携の在り方・進め方について具体的に考えていきたい。 以下の具体的な内容を考えている。 ・学校教育において育みたい資質・能力 ・学校段階間の「連携」と「接続」の考え方・進め方 ・幼小の円滑の接続と、幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)の活用
評価基準	講義終了後、学んだ内容を確認する簡単なテストを行う。

講座名	学校を巡る近年の状況の変化—学校を巡る問題と学校内外の連携協力
担当講師	小笠原優子
講座概要	<p>大きく社会が変化する中、子どもたちに自ら判断し行動する力を育み、子どもたちを見守り育てる環境づくりをするためには、学校内外の連携協力の見直しと改善が必要である。学校を巡る状況の変化を、子どもたちの姿から、また家庭や地域社会の学校教育に対する関心等からとらえ、学校と地域社会が共に子どもたちを育てる教育の果たす役割について考える。どのように子どもたちのための環境づくりを行い教育の質の改善や説明責任を果たしていくべきか、学校の課題解決に向けての対応をどのようにすべきか、次の内容について考える。</p> <p>(1) 学校を巡る「危機」の状況と学校の危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内外の安全確保に関する内容 ・近年の課題の状況を踏まえた内容 <p>(2) 問題に対する組織的対応の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の一員としてのマネジメントマインド形成、体制の確立、家庭・地域社会との連携 ・対人関係、日常的コミュニケーションの重要性
評価基準	「学校を巡る近年の状況の変化—学校を巡る問題との学校内外の連携協力」についての講義から理解した内容、教育現場における実態と照らし合わせ考慮すること等について小テストを行う。